

竹の子川柳会

あきのよるゆうほうみれずほしみれた

小一 西村 楓斗

けんかせずカードゲームでしようぶする

小二 新野 翔太

しんけんにカードをにらみしようぶする

小五 山田 清也

ボールこいねらってあたりホームラン

小六 石崎 海士

二のーで九九のカードがクラス一

小六 梶野 海斗

いつまでも時計の針が動いてる

中一 淵本ななみ

寒い日は動きたくないふとんから

中三 清原 増依

夜の空月と星とがダンスする

中三 吉良ちひろ

大会で強敵あたる嫌だなあ

中三 菅元 聖羅

教室に太陽あたるポカポカだ

高一 清原 沙耶

今まさに人生の岐路つきあたる

高二 宮崎 京

冬の夜になるととてもさみしいな

高三 上岡 夢菜

手品しはカードに種をしまいこむ

高三 榎 美咲

一度だけあててみたいなたからくじ

高三 宮川 直輝

午前四時チラシも入れて朝が来る

若宮 賢敬

スーパのチラシ必見老いの日々

山本 雅之

公園で子等は遊びの発明家

男武志津江

公園の遊具がみんな泣いている

川添 忠昭

公園で二人で食べた手弁当

熊本 忠真

みんなの輪公園利用話題咲く

宇都宮 忍

公園のブランコゆらす子がいない

加藤 桂子

寒風に揺れる脱渋甘くなる

水野すみこ

肩書を脱ぎ捨て挑む農作業

伊勢本 忠

老境へ空気の抜けて行くボール

渡辺 光男

ダンボール捨てれぬ本を詰めて置く

米子 達雄

自然災害地球の未来思いやる

渡辺 照子

脱北へ命を賭けた大博打

宮川 柳酔

ひよし川柳会

鬼北の足跡を辿る…【第5回】

「平安時代から鎌倉時代」

平安時代のはじまりは、皆さんもご存じのとおり、794年、桓武天皇が平安京に都を移してから鎌倉幕府が成立するまでの間の約390年間、鎌倉時代は室町幕府までの約130年間を指します。およそ500年という長い期間ですが、文献等の記録も少なく、この頃の遺跡の事例は、南予管内を見渡しても極めて少ないのが現状です。

律令制のもと、国郡里制により宇和郡が成立します。その後、政府が墾田永年私財法を発したことで、開発した田園を私有地とすることができるようになり、有力貴族や大寺社は「荘」という管理事務所や倉庫を建てて開発・経営にあたりました。宇和郡には「宇和荘」という伊予国最大の荘園があり、その成立は鎌倉初期頃とされます。範囲は明確ではありませんが、宇和盆地を中心に吉田・宇和島・津島、北宇和郡一帯を含む広大なものでした。当初、宇和郡および宇和荘の地頭職を務めたのは橘氏でしたが、嘉禎四年(1238)に、京都公家の西園寺家が領有しました。この頃の当地域の資料とし

ては、主に、寺社に伝わる仏像や仏画などがあります。当町芝地区にある奈良山等妙寺には、平安時代末の「如意輪観音像」(画幅をはじめ、平安・鎌倉期の伝世品が多数残されています。また、柏田宝樹寺の「千手観音坐像」(鎌倉後期)や、小松善光寺の本尊「阿弥陀如来坐像」(平安中期)、上川龍淵寺の「釈迦如来坐像」(平安中〜後期)など、優品古仏が多く遺されていることには注目できます。

平野部は荘園の園田開発、山では山林開発が進み、多くの社寺が造られました。源氏・平家の伝承を伝える地域もあります。天台密教系の寺院が広がり、山岳信仰と結びついた山岳修験が盛んになったのも、この頃と考えられますが、地域の実態はいまだ謎に満ちた時代なのです。



小松善光寺「阿弥陀如来坐像」